

# データ総研のMDMソリューション MDMアセスメントサービス

CATALOG

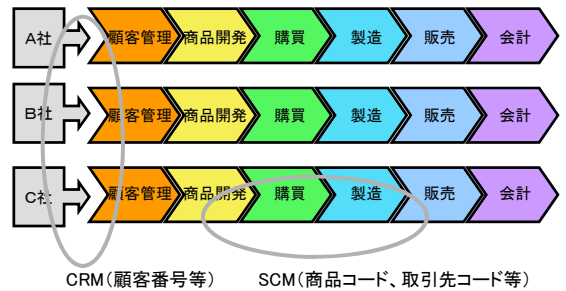
～「とりあえず小さな投資でマスター整備に着手してみようか」とお考えの方に～

## 対象となるユーザー様 ～次期予算策定のためにも問題点を把握～

- ◆『ERP・SCMやCRMといった、広域データ統合が前提となるシステム導入をする上で、現行マスターデータ上の問題点を把握したい』
- ◆『将来的な業界再編や規制緩和など、今後起こり得るビジネスルールの変化に対応できるデータ構造であるかを見極めたい』
- ◆『現行のマスターデータを可視化し、問題点(ex.冗長性やコード変換ボリュームなど)を把握したい』

## マスターデータ整備は広域情報連携のカギ

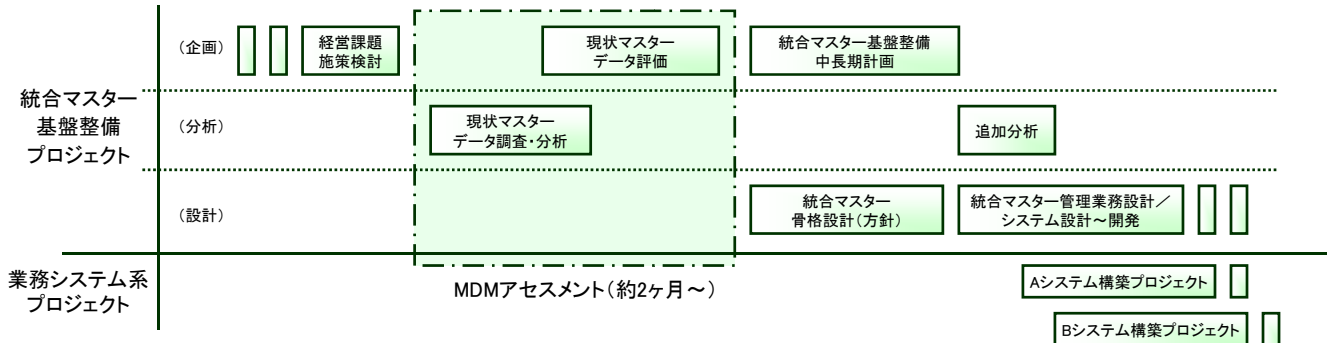
例えば「ERPの導入」や「SCM/CRMの実現」、これらに共通するのは、システムによる広域的な情報連携を必要としていることです。その前提として、視点の軸となる「リソースコード(ex.商品コード、取引先コードなど)」を統制することが重要です。「リソースコード」を特定し整備することにより、目標達成に必要な範囲内で、データ変換などを可能な限り伴わず、水平/垂直方向の情報を容易かつスムーズに把握することが可能になります。



## MDMアセスメントの位置づけ

貴社現状のマスターのデータ構造・管理状態、および主要な業務課題を明らかにし、評価レポートとしてマスターデータ課題を経営層に揭示することを目的とします。また、弊社「MDMソリューション」の1工程として、次工程「統合マスター基盤整備中長期計画」策定の起案・準備を行う役割としても位置づけています。

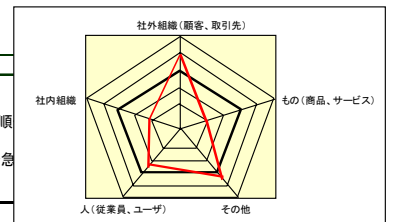
【MDMソリューション標準工程】～マスターデータの整備は先んじて動く～



## MDMアセスメントサービスの概要

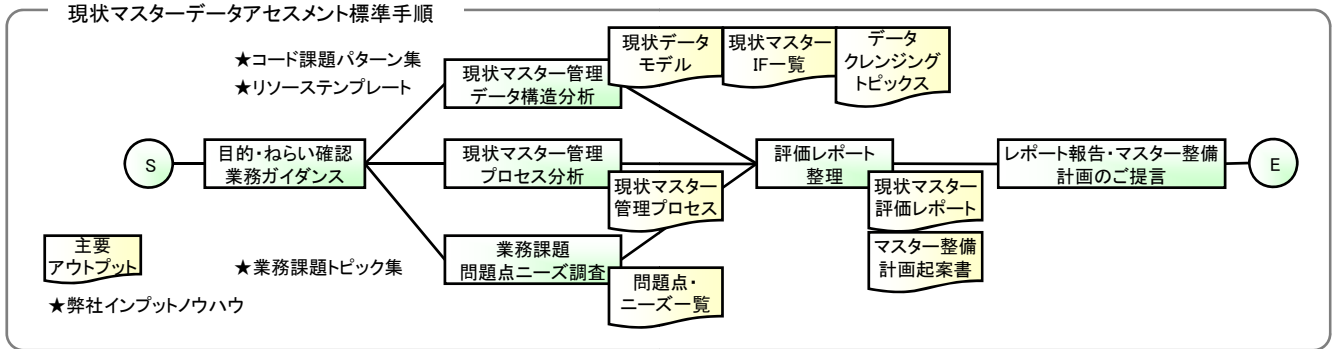
- ◆ 貴社経営課題に対するマスター統合の効果を検証し、候補となるマスターデータを**選定**します。
- ◆ 選定したマスターデータを可視化し、現状の**障害レベル**を5段階で評価します。(下段サンプル例)
- ◆ 障害に対する基本的な解決策と、統合マスター実現に向けた**計画**をご提示します。

大分類	小分類	ニーズ調査		現状マスタ分析							統合優先順 重要性・緊急	
		業務的な統合ニーズ	現行コード	現行システム	業務変化対応	冗長性	粒度統一感	項目名称	インスタンス	...		...
もの	品目	①グローバルなSCM(調達、生産、供給)や、PLM(研究・開発、LCAを含む)といった基幹業務を行なうに際して、自社グループが扱う「モノ」を識別・管理するため	商品コード	販売物流	×	×	×	△	×	...	1.5	A
			製品コード	生産管理	×	×	○	○	○	...	2.8	A

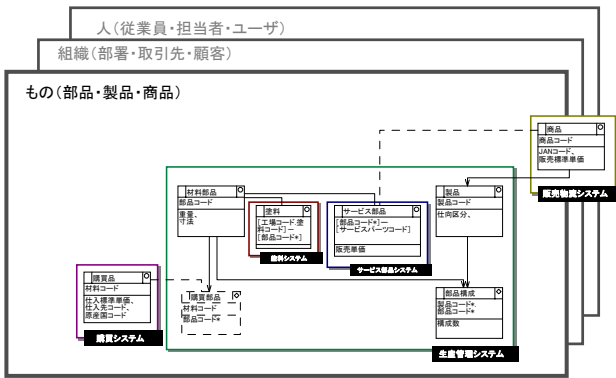


・同一概念のコードが多数存在し、システム間でやりとりされる入出库や受発注といったトランザクションでこれらが頻繁にコード変換されていると想定され、トランザクションメンテナンス負荷の一因となっている。  
【業務的な観点】  
・グローバルな在庫管理を実現する上

## 実施手順



## 充実したフレーム・ノウハウ群



### 【現状データモデル】

- 商品や顧客など、システム間で共用性の高いマスターを見極め、対象システムを網羅的に分析します。
- 分析結果は、規格化・標準化された概念データモデルにまとめるため、複数メンバーでの情報共有が可能です。

No.	課題/ウーエン	例	改善/ウーエン	データモデル	コード体系	コード対象	コード種類	コード値
1	同一階層対象に対するコード重複が存在	顧客コードと問題コードが存在 顧客コードと仕入先コードが存在	統合しよう	◎				

経 営 目 的 (例)	顧客管理システム構築				その他	
	社内経理	経理系	仕入先	仕入	顧客	その他
顧客ニーズに合わせた効率的な商品品揃え (商品別収益把握、インフォメーション)				◎	◎	
営業活動の効率化 (顧客別利益把握、営業日報、顧客情報共有)	◎	◎				
効率的な在庫管理 (廃棄・在庫情報の共有化、適正在庫水準数値化等)	◎		◎	◎	◎	
原価削減 (間接料、副資材の購買コスト削減)		◎			◎	
製品開発のスピードアップ (開発プロセス透明管理方法確立、製品仕様情報共有化)			◎	◎		
品質管理の強化 (トレーサビリティの確保)				◎	◎	
業績把握のスピードアップ (決算早期化、タイムリーな収益把握)	◎				◎	
迅速な顧客対応の実現 (リアルタイム情報、新商品啓蒙の実施)	◎	◎	◎	◎		◎

### 【業種別リソーステンプレート】

分析領域の特定や、貴社現状データモデルとFit&Gapによる課題抽出などに利用。

### 【経営課題トピック集】

一般的な経営課題とそれに応じた対象マスタと統合の必要性解説。対象コードの特定や統合優先順位の設定に使用。

### 【コード課題パターン集】

頻出課題、及び調査方法・解決方法のノウハウ集。

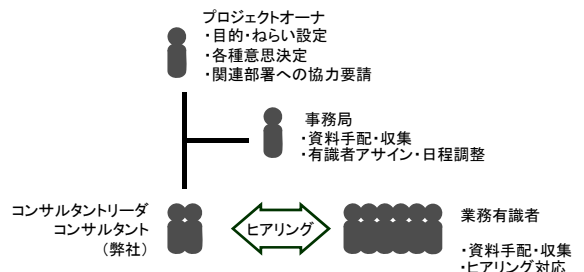
## 期間・体制・費用など

【期間】2ヶ月～を想定

【体制】右図参照

【費用】約200万円～

※目的・ボリューム・体制・実施タスクに応じてご相談させていただきます



お問合せ先: 株式会社データ総研 営業担当 TEL: 03-5695-1651 / E-Mail: crm@drinet.co.jp

## 株式会社データ総研

代表取締役社長 黒澤 基博

1985年創立。データ設計と標準化に特化したITコンサルティングファーム。データ中心アプローチ(DOA)のバイオニアとして知られる。

PLAN-DB®、PLAN-CODE®をはじめとする設計技法や開発方法論をベースに、わが国のリーディングカンパニー254社を支援。現在779件を超えるデータ仕様ライブラリを有する。

東京都中央区日本橋小伝馬町4-11サンコービル TEL:03-5695-1651 FAX:03-5695-1656 http://www.drinet.co.jp